



発行者:愛媛県東温市横河原366 国立病院機構愛媛病院 発行責任者:院長 岩田猛 <http://www.ehime-nh.go.jp>



重信川菖蒲堰 (東温市山之内)

も < じ Contents

院長マニフェスト	2
コレ やります	
new faces introduction	3
山内一彦 山下泰治 藤田鉄平 石丸啓	
がんばろう!日本	4
当院からも被災地へ	
結核フォーラム in えひめ2010	4
150名来場	
看護の日	5
雨二モ負ケズ	

医療の輪	5
選手の交代をお知らせします	
医療安全管理室だより 23	6
医療安全の取り組み研修	
四季燦餐	6
うどんの巻	
看護学校の頁	7
第10回 入学式	
ちょっと言い放し	7
外来診療担当医表	8

※弊誌の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。

コレ やります! 院長マニフェスト



岩田猛院長

こんにちは。今回は今後の病院運営についての方針、希望を述べさせていただきます。

①新病院像の完成：新病棟に続き、サービス棟そして外来管理棟

平成24年末には新病棟完成が決定し、入院患者さんにはより快適な療養環境で治療を受けてもらえるようになります。それに続くサービス棟（給食施設、食堂、スタッフの更衣室など）の建築は計画中です。外来管理棟の建築は最も費用がかかるためまだ正式な計画は出来ていませんが、新病棟完成を足がかりに今以上に病院経営を向上させて、建築を現実のものとして愛媛病院の新しい全体像の完成をめざします。

②ポストNICUの整備

NICU（新生児集中治療室）にて治療後も入院継続が必要な重症疾病を持った小児患者さんの受け入れ体制を整備します。重症心身障害病棟もうまく利用して適切な医療が提供できるように考えます。

③訪問診療

神経難病、重症心身障害児など特殊な症例で、地域開業の先生方では対応が難しい患者さんの訪問診療を行います。これにより通常では在宅療養が難しい患者さんも自宅に帰ることが出来るように支援したいと思います。

④IT化の推進

病院改築とともに大事なことは、オーダリングさらには電子カルテの推進です。四国内の国立病院機構の施設の動向も参考にして、出来るだけ早期の電子カルテ化が望まれます。

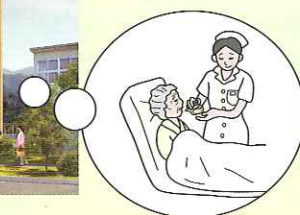
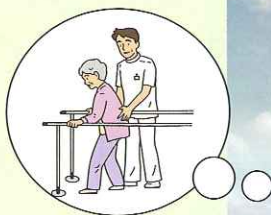
⑤高齢化社会に対応した医療の提供（機能回復センター）

高齢の患者さんが疾病治療だけでなく、全体的に適切な治療が受けられる体制作りを考えます。また機能回復センター的な役割の強化も必要です。新病棟5階に出来るリハビリ室では東温市の緑豊かな景色を眺めながらリハビリに励んでもらえると思います。さらに行政や医師会等と連携協力して超高齢者の疾病早期診断や急病時の医療体制などの整備をしていきます。

⑥愛媛大学病院および四国がんセンターとの連携

当院を含めた3病院で機能分担をはかり、患者さんに適切な医療の提供を行います。患者さんの紹介に留まらずに、医師や看護師等のスタッフの人事交流や相互派遣なども積極的に行い、連携関係を強めます。特に愛媛大学医学部の学生および研修医が当院で実習や研修が通常に行われるような体制を作りたいと思います。

これらの目標の実現のためには我々病院スタッフの努力は勿論ですが、愛媛病院を信頼して下さる地域の皆様方のご協力が不可欠です。今まで以上の職員の頑張り地域の皆様のご支援を期待しております。



new faces introduction

消化器科医長
糖尿病内科医長

山内一彦



4月1日付けで赴任しました消化器・糖尿病内科の山内一彦です。

出身は松山です。愛媛大学卒業後、当院で大学病院採用時の健診を受けたのがご縁の始まりでした。その後市立八幡浜総合病院に5年勤務し、最初1年半は消化器疾患を中心に研修しました。糖尿病、特にインクレチンが専門の院長から「食物は胃腸で消化吸収し、膵臓がインスリンを出し、肝臓が糖を取り込むのだから君は糖尿病が専門だ。」と教えていただき、半年間院長室や病棟での個別指導をいただいた後、糖尿病も専門といたしました。その後十全総合病院に勤務しつつ大学で研究して学位を取得し、虎の門病院でESDの技術指導を受け、十全総合病院、済生会今治病院で消化器病学会、消化器内視鏡学会、肝臓学会、糖尿病学会の専門医、指導医を修得し、認定施設立ち上げを経験して、当院に参りました。

当院はみんなが『前を・上を向いて、進んでいこう・伸びていこう』としているとても雰囲気の良い病院であり、仲良く一丸となって腰を据えて頑張っていきたいと思えます。ご指導よろしくお願い申し上げます。

循環器科医師

藤田鉄平



はじめまして。4月からこちらの病院でお世話になっております藤田です。まだ分からないことも多いですが、スタッフの方々に助けられ、少しずつ慣れてきたところです。専門は循環器で、医師9年目になります。現在は心臓カテーテル検査、ペースメーカー、心エコー、心筋シンチグラフィなどの検査と外来、病棟業務にたずさわっております。

私は松山市で生まれ、幼稚園から高校までは北条市で育ちました。大学は金沢で過ごしましたが、愛媛がいい所だと再認識して地元に戻ってきました。大学院を卒業後、昨年までの2年間は今治で勤務していました。今は3月に生まれた子供の成長をみるのが毎日の楽しみです。

これから少しでも地域医療に役立てるように頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

神経内科医師

山下泰治



4月より当院へ転勤して参りました神経内科の山下泰治です。出身は四国中央市(旧川之江市)で、愛媛大学在学中は東温市の住民でした。神経内科の勉強のために福岡県にある九州大学や飯塚病院などで神経内科の診療をしてきました。本年度より愛媛病院神経内科へ勤務することになり、久しぶりの愛媛の地に懐かしい気持ちと身が引き締まる思いです。

神経内科は脳や脊髄、神経、筋肉の病気をみる内科です。科の名称が紛らわしいため、特に間違えられやすいのが精神科、精神神経科、神経科、心療内科などです。これらの科はおもに気分の変化、精神的な問題を扱う科です。

神経内科はこれらの科と異なり、精神的な問題からではなく、脳や脊髄、神経、筋肉に病気がある病気を扱っており、脳梗塞、認知症、パーキンソン病、頭痛、てんかんなどよく遭遇する病気から、筋萎縮性側索硬化症など神経難病まで様々です。当院では特に神経難病の診療に力を入れており微力ですが精一杯努力したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

外科医師

石丸 啓



5月1日付けで赴任しました外科の石丸啓(いしまるけい)です。

出身地は今治市です。平成7年浜松医科大学医学部を卒業し、浜松医科大学第二外科学講座に入局後、浜松医科大学附属病院、静岡県立総合病院、浜松労災病院、浜松赤十字病院、足利赤十字病院(栃木県)、浜松南病院、松田病院(浜松市)で、消化器外科・血管外科を中心に研鑽を積んでまいりました。現在までに日本外科学会専門医、日本消化器外科専門医・指導医、日本消化器病専門医、日本がん治療教育医・認定医、日本脈管学会専門医、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、産業医、臨床研修指導医を取得しました。

今回縁あって出身地の愛媛に戻ってまいりました。それなりのいい年ですが、自分ではまだまだ若手のつもりです。愛媛病院では一般外科の疾患や内視鏡治療はもちろんですが、静脈瘤手術なども手がけていきたいと思っています。自分の理想に向かって、誠実に、熱意をもって日々精進していくつもりです。よろしくお願いいたします。

がんばろう！日本

阿部副院長をチームリーダーに、成岡薬剤師 若林・藤岡両副看護師長 郷原専門職の5名で、4月3日から7日までの5日間、仙台医療センターに宿泊し1日に2～3か所の東松島市内の避難所を回り、平均して40～50名の診察と投薬をおこないました。まだ寒い時期でもあったため風邪の症状を訴える方がもっとも多く、次いで罹災後の不安と不自由な避難所での生活ゆえか不眠を訴える方が多かったようです。

また、3月中旬より職員から義援金を募り、集まった40万円あまりを中央共同募金会に募金させていただきました。

遠く四国の地から、出来ることは微力で限られてもいますが、被災された方々が1日でも早く笑顔を取り戻せるように、支援を続けてゆきたいと考えています。

がんばろう日本！ 負けるな東北！



左から、阿部副院長・藤岡副看護師長
若林副看護師長・郷原専門職・成岡薬剤師

東日本大震災で被災された方々に、職員一同心よりお見舞い申し上げますと共に、亡くなられた方のご冥福をお祈りいたします。また一日も早い復興を願っています。

ところで3月11日の発災と同時に当院でも各方面から情報を収集して、被災地への派遣に備えていましたが、機構本部からの派遣要請を受け医療班を派遣しました。

当院からも被災地へ

義援金募金
医療チーム派遣



避難所で医療活動中

結核フォーラム in えひめ 2010

150名来場

日本では、依然年間2万4千人以上の方が新規に結核を発症しています。我が国の結核医療の問題点は高齢者の結核患者が多いこと、多剤耐性結核・超多剤耐性結核の存在、集団感染や介護者・医療者への感染、大都市での結核などが挙げられます。

「結核フォーラム in えひめ」は第1回が2002年度に開催され、今回が9回目となりました。かつては国民病と言われていましたが、近年ほとんど無いと思われがちな感染症である結核について医療関係者や市民の皆様にご存知いただくようと当院前院長の西村一孝先生を中心に、当院および愛媛県総合保健協会が共同主催で行われてきました。これまでフォーラムでは、高齢者結核の問題やハイリスク患者の結核発病予防対策、クオンティフェロンTB検査、学童期の結核健診についてなどの講演やシンポジウムが企画され、多くの方の参加がありました。

今回の「結核フォーラム in えひめ 2010」は平成23年3月12日(土)の午後およそ3時間に渡って愛媛県総合保健協会9階会議室において開催されました。まず私が「愛媛県における結核診療の状況」について報告しました。続いて当院結核病棟副看護師長の篠原理佐が「医療機関における結核感染対策」について講演を行いました。特別講演は「多剤耐性結核について」と題して、結核治療

のエキスパートである近畿中央胸部疾患センター統括診療部長の鈴木克洋先生にお願いしました。耐性菌とは、耐性菌をつくらないために、感染対策のポイントなど詳しくしかもわかりやすくお話しいただきました。およそ150名の方に参加いただき、大変有意義な機会を持つことができました。今後も結核フォーラムを継続し、結核撲滅に向けて当院から率先して啓蒙活動を行っていきたいと考えています。

副院長 阿部聖裕

当院の特徴としては…



講演中の篠原副看護師長

看護の日

雨二毛負ケズ…

毎年、5月12日の看護の日は「看護の心をみんなの心に」をメインテーマに活動を行っていますが、今年も隻手薬師（香積寺）での看護相談を行いました。

当日は前日から続くあいにくの雨で戸外での活動ができるのか不安でいっぱいでしたが、住職さんから「とにかくテントを準備して待っています」との温かい言葉をいただき、雨の中の活動も覚悟しての出発となりました。会場はいつものとおり、立派な



テントや椅子が準備されており、さらに水溜りができないよう溝が掘られていたり、ぬかるみの上には板をおき、会場に少しでも入りやすくなるよう心遣いがしてありました。うれしいことに健康相談を始めてからは雨もやみ、参加した委員にも笑顔が見られるようになりました。「今日はこれを楽しみにやってきました」「雨の中ご苦労様です」と参拝者の方が温かい言葉をかけてくださいました。参拝者の方々は高齢の方が多く、足元が悪いことがあり、転倒に注意し、声かけや段差のあるところでは手を添え、安全に配慮しながらの活動となりました。当日はあいにくの天候にもかかわらず115名の方が健康相談にこられました。

古い記録をたどってみると平成12年から隻手薬師での活動が記録に残っており、今年で12回目の活動であることがわかりました。平成13年にはなんと310名の方が健康相談にこられています。10年以上の活動の歴史があるからこそ、毎年楽しみにしてくださる地域の方がおられ、地域に根ざした愛媛病院だからこそできる活動だと思えます。

看護の日の活動に毎年快く協力いただいている隻手薬師および、地域の皆様へ感謝申し上げます。

医療の輪

繋がる地域医療連携



選手の交代をお知らせします

みなさんこんにちは。4月1日付けで地域医療連携室のメンバーが入れ替わりしました。室長が阿部前統括診療部長から久保統括診療部長に、地域医療連携係長が山田から私小谷加奈子になりました。院内で会う方に「どう？慣れた？」と声をかけられると同時に「なんか生き生きしてるね」「明るくなったね」などいわれるのはなぜでしょうか。

地域医療連携室の専従は私を含め5人という小さな部署ですが、所属してみて初めてわかったのは個々の力の大きさです。やっと1年という整理整頓上手な看護師の西田、今では地域連携室のブレインとなるソーシャルワーカーの松本、院内外の診療情報に精通している村上、難病コーディネーターの橋本、このスタッフに支えられ、2か月が過ぎました。

今や医療界におけるキーワードは「チーム医療」。そしてその核となるのが地域医療連携室であると私は考えています。病棟においても他職種との関わりはありましたが、地域医療連携室においてはさらに重要です。院内だけでなくとどまらず院外に向けて顔をつなげていくために、なれない名刺交換を行い、普段使わない言葉でかみながら電話対応するなど愛媛病院のPRに努めています。

最近読んだ本の中で「頭はときどきからっぽにして可能性に席をあけてやろう」という言葉がありました。心にかんだ発想を“普通に考えればできっこない”と思いきひではなく、すべての発想が実現し、大きな成果に結び付くわけではないが空想を羽ばたかせることだけでも楽しい、というのです。看護師になってから32年。確かに自分には無理、できないと思っていたことも、やってみると何とかできるようになったこともありました。このたび地域と医療をつなぐ役割をいただき自分の中で新たな転機と考え、愛媛病院が地域に根付き必要とされる病院になるよう努力してまいります。皆様どうぞよろしくお祈りいたします。

小谷です
よろしく
お願いします



医療安全管理だより

⑳ こんなことしています

平成23年度第1回研修会は自治医科大学医学部 メディカルシミュレーションセンターセンター長 医療安全学教授の河野龍太郎先生にお越し頂き6月3日に研修会を開催しました。私が3年前ヒューマンエラー防止手法セミナーで、ヒューマンエラーの定義からエラーの試行手順を聞いた時、当院の職員一人ひとりに聞いて欲しい内容だと思いました。昨年、現院長に相談したところ「循環器病学会で河野先生の講演を聞いたがとてもよかった。『安全は存在しないリスクのみ存在する』が印象的だった。是非来ていただいたら…。」との後押しもありました。また研修を受けるにあたり河野先生の著書「医療におけるヒューマンエラー」を職員が読めるように各部署に配布し、各現場での「医療安全について」勉強会で先生の紹介をしました。

研修会のテーマは「医療安全への取り組み」で沢山の資料を基に講演していただき先生の熱意が伝わってきました。「リターンマッチはないのが医療の現場である」との言葉にプロとして専門職として誠実に一つのリスクを減らす努力を継続して続

ける必要性を考えさせられた研修会でした。

参加者の事前調査は98名でしたが予想を上回り130名の参加で、全員参加した部署や、準夜勤務以外の職員は全員参加した病棟もありました。とても嬉しい反面、90分の講演を十分に聴いていただける環境の準備には課題が少し残りました。アンケートの結果は、テーマに興味があったが78%、満足できる86%、実践できる56%でした。「5Sの重要性がわかった。」「指差し呼称はすぐにでもできるから自分で確認したい。」「マニュアルを遵守したい。」「常にリスクを減らす努力をしたい。」などの意見が多くありました。また早速翌日には環境の大切さがわかったと床にワゴンの定位置の印をつけましたと報告もありました。

当院で、河野龍太郎先生の研修会が開催でき、職員一人ひとりが一つのリスクを減らす努力をしようとする意識の風を感じることができた研修会でした。



しきさんさん 四季燦餐

うどんの巻

今回より連載を担当します二代目東温子^{ひがしぬらこ}です。食についてのいろいろな話をしていきたいと思います。

暑くなってくると、のどごしがいい「ざるうどん」や「ぶっかけうどん」が食べたいと思うのは香川に住んでいた私だけでしょうか？

香川はいわずと知れたうどん王国です。なんと1年で一人当たり約230玉のうどんを食べているそうです。この量は2位の埼玉の約3倍にあたります。香川県では毎年7月2日ごろにあたる半夏生にうどんを食べる習慣があり、最近では大みそかや年明けにもうどんを食べる人も多いそうです。また、新築のお祝いに、家族や親せき、近所の人にお風呂に入ってもらい、そこでうどんを食べてもらおうという珍？風習もあるくらいうどんは生活とはきっても切り離せない食べ物です。

この「うどん」はお大師様が唐から伝えたと言われていますが、詳細は不明。でも、とてもなが〜い歴史があるようです。江戸時代前期に初めてうどん屋が営業されましたが、寛永の飢饉のときにはうどん禁令が出されるほど警沢品だったとか。茶店などで菓子と一緒に嗜好品として供されていたり、田植えや法事の際に振舞われたりする特別な存在だったそうです。20世紀前半の香川県では年中行事や冠婚葬祭でもうどん料理が食べられ、「うどんが打てぬようでは嫁にも行けない」という言葉まであったそうです。

ところで、夏に食べたい冷やうどん。ひと手間加えていつもとちょっと違ううどんを楽しんでみませんか？

和風味が好きな方へ

- ★梅つゆ
梅干し 1個
めんつゆ 1/4カップ
水 1/4カップ

- ★ごまだれつゆ
ねりごま(白) 大さじ1/2
白みそ 小さじ1
めんつゆ 1/4カップ
水 1/4カップ

ちょっと辛いのが好きな方へ

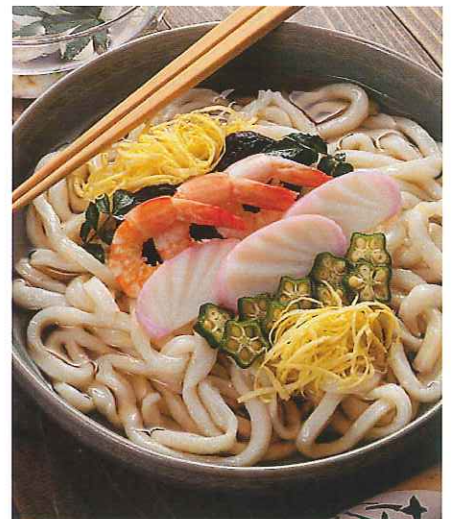
- ★キムチつゆ
白菜キムチ(適当に切る) 20g
めんつゆ 1/4カップ

- ★ラー油めんつゆ
食べるラー油 小さじ1
めんつゆ 1/4カップ

洋風味が好きな方へ

- ★イタリアンつゆ
トマト(適当に切る) 1/4個
ツナ缶 1/6個
めんつゆ 1/4カップ

- ★まよつゆ
マヨネーズ 大さじ1
めんつゆ 1/4カップ
水 1/4カップ



看護学校の頁

～学び舎から～

第10回 入学式

遠く石鎚の頂きに雪が残り、風が冷たく、4月になろうかというのに寒さがつづいたので、入学式に桜が咲くのだろうか心配していました。毎年、桜の便りとともに、新年度を迎える学校の入学式には、桜が欠かせません。毎日、学校の前の桜とにらめっこして待ちました。すると、暦が4月になると日々蕾がふくらみ、4月7日には、青く晴れ渡った空を背景にきれいに咲きました。満開のなかで、第10期生39名が入学しました。

入学式では、多くの来賓の方々、ご家族の方、病院職員、在校生に見まもられて、代表者が「夢だった看護師になるために3年間仲間と励まし合い、高め合いながら看護師を志す」と決意を述べました。学校長の式辞、来賓の祝辞では、3月11日に起きた過去最大級の地震と津波による大災害について、それぞれの自治体や施設から派遣された職員の報告を交えて、社会の中で貢献できる看護師になるように、激励のことばをいただきました。そのことばで、報道されている被災された人や町や港の様子、国を超えた多くの人の救助活動の様子が浮かびました。平穏な毎日の生活が一瞬にして消され、大切な人を亡くした人々に、医療は、看護は何ができるのだろうか問われているように感じました。

4月から学校長になられた岩田先生と副学校長になられた阿部先生、教員の異動により、井上先生、船津先生を迎え、学校職員もかわり新たなスタートを切りました。今後ともよろしく願います。



ちよつと言い放し

愛媛病院ニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

東温市は2004年に温泉郡重信町と川内町が合併し誕生しました。住みよさランキングで愛媛県内1位であり、医療や教育などが充実しており自然豊かな地域だと思えます。さすが東温市。ここに住み始めてまず惹かれたのは温泉でした。

今では仕事が終わったあとに、温泉道具を片手に馴染みのある温泉へ…。春になると桜が満開、夏になると緑の木々が、秋になると紅葉で色鮮やかに、冬は雪に覆われた山を見上げ…。四季折々の情景を露天風呂から眺めることができる瞬間は格別です。

また、温泉は地域を超えた交流の場ではないでしょうか。「今日は良い天気ですね」「何気ない会話で、見ず知らずの人とも話すようになりました。裸の付き合いをするだけあってか、温泉をきっかけに親密になれる気がします。老若男女、温泉では年齢なんて関係ありません。人生相談や料理のコツなど、温泉で知り合った方々から、さまざまなお話を教えていただきました。長話をしてしまい、たびたびのぼせることがありますか…。」

そして、もうひとつの楽しみは、温泉からでたあとの牛乳です。からだがぼかぼかになったときに、冷たい牛乳を一気に飲む…。この瞬間も温泉ならではではないでしょうか。おすすめはフルーツ牛乳ですね。

温泉の魅力に惹かれ、今では温泉通になりました。ぜひ、温泉に行つてちよつとした贅沢な時間を過ごしてみてください。

みかん



外来診療担当医表

内科外来直通電話 089-990-1834 FAX 089-990-1858
 外科外来直通電話 089-990-1835 FAX 089-990-1859

診療科	月	火	水	木	金	
内科	循環器	岩田(午前) 船田	橋田	橋田(予約のみ) 藤田	岩田	船田
	消化器	古田	山内(一)	古田	久保	久保
	呼吸器	阿部	市木 渡邊	佐藤	阿部 植田	市木
	神経	橋本(午前)	山下(午前)			戸井
専門外来 (完全予約制)	心臓リハビリ 橋田	心臓リハビリ 橋田	心リハ外来 橋田(午前)	心臓リハビリ 橋田(午前)	心臓リハビリ 橋田	
			心臓リハビリ 橋田(午後)	ペースメーカー外来 第2・4(午後)		糖尿病外来 古川(第2・4)
	SAS外来 渡邊 (14時~16時再診のみ)	アスベスト外来	ペインクリニック 山内	スキンケア外来 第2・4(午前)	じん肺外来 西村(第1・3)午前	
			SAS外来 植田(午後)	アスベスト外来		
外科		鈴木		渡部 (消化器外科・隔週)	湯汲	
				山下・澤田・末久 (呼吸器科・第1)		
				泉谷 (心臓血管外科・隔週)		
				石丸(消化器科) (第2~5・15時~)		
整形外科 午前のみ診療	宮本	曾我部	曾我部	宮本	曾我部(第1・3・5)	
	横手		横手		宮本(第2・4)	

※外来受付は午前8時30分から午前11時までです。ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。 2011年7月1日現在
 ※容体急変の心臓疾患・急性呼吸不全の患者様は24時間受け入れいたします。
 ※SAS(睡眠時無呼吸症候群)
 ※禁煙外来は、4月1日より休診いたします。

独立行政法人国立病院機構 愛媛病院

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251
 ホームページアドレス <http://www.ehime-nh.go.jp>

当院の位置と交通



高速道路川内ICまでの所要時間

- 三島川之江IC(70km) 50分
- 高松西IC(130.9km) 1時間30分
- 徳島IC(170.9km) 1時間50分
- 高知IC(130.1km) 1時間30分
- (川内ICから当院まで車で5分)

交通機関

- 電 車 伊予鉄高浜横河原線横河原駅下車徒歩7分
 または、愛大医学部南口駅下車徒歩3分
- バ ス 伊予鉄松山市駅川内方面行横河原下車徒歩10分
- 自家用車 松山市から30分 伊予市から40分 西条市から60分
 無料駐車場完備